

5 実態調査の結果（概要）

(1) 実態調査の概要

実態調査の内容について、以下に整理します。

分類	調査内容
レンタカー利用者調査	レンタカー利用者を対象に、利用状況や公共交通機関への転換可能性、条件把握のため、空港等ヒアリング調査やホテル利用者調査を行った
住民アンケート調査	宮古島市民の移動実態を把握するため、公共交通機関の利用頻度、利用目的（買い物、通勤等）等を調査した
事業者アンケート調査	交通関連事業者、関係団体、観光関連業者等を対象に、公共交通のニーズや導入に向けた行政との連携・協力の可能性等を把握するため、アンケート調査を行った

(2) 結果まとめ（アンケート・ヒアリング）

公共交通に関する利用状況や将来の方向性などについて、以下に整理します。

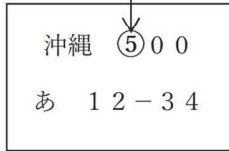
分類	主な意見
レンタカー利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ○レンタカーがないと回れない ○周遊バスなど公共交通機関の充実を望む
住民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の方向性について、「公共交通を現状よりも充実させて、利用促進を図るべきだ（33.9%）」 ○公共交通の利用促進のための取り組みとして、「バス停の待合環境の整備（36.3%）」や「地域特性に応じた新たな交通手段の導入（35.3%）」 「路線バスのルートや運行ダイヤ等の見直し（29.5%）」
路線バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○街路樹の手入れ不足による道幅減少、路上駐車による足止め ○乗務員の不足、乗務員の長時間労働、車両老朽化 ○観光客目線での利便性の良い路線、「ループバス」のような基幹交通との連携強化が必要
タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○乗務員の不足、乗務員の長時間労働、車両老朽化、低賃金 ○高齢者など交通弱者に対する支援を求める ○西里通りの道路拡張、観光地のトイレ・バス停の整備
観光関連業者	<ul style="list-style-type: none"> ○空港やホテル行きのバス路線やバス停の充実を行ってほしい ○ループバスの様に回遊性のある使いやすい公共交通を求める ○バス乗降についての説明不足などサービス力が低い ○道路の清掃をしてほしい
スーパー事業者・病院・関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ○学生や高齢者などが利用しやすい交通環境の整備 ○タクシーを利用した宅配事業や島内事業所への消費に応じた料金割引クーポンの提供などの還元事業を取り組んでほしい

(3) 地域別意見交換会

地域ごとの移動の困りごとやニーズ、宮古島市の5年後の移動手段について把握するために実施した意見交換会（ワークショップ形式）の結果を以下に整理します。

地域／実施場所	主な意見
上野地域 ／上野公民館	<ul style="list-style-type: none"> ○バスは移住者や観光客は使うが、学生を含め利用者は少ない（学生9割送迎） ○集落を通るデマンドバス、ループバスの支線、目的地への専用バス（乗り合いマイクロバス）、コミュニティバスの需要がある。 ○免許がなくても使える交通占用の道路整備（シルバーカー・電動キックボード）
下地地域 ／下地公民館	<ul style="list-style-type: none"> ○バスは情報が分かりづらく、便数が少ないので乗らないが、タクシーには乗る ○買い物について、家族送迎とJAの移動販売を利用している ○バス停について、部落内設置など再設定を求める声がある ○街路樹による死角・カーブミラーの遮蔽がある ○定額化された公民館から出発するバス、デマンド交通、コミュニティバスへの導入への意向がある ○来間島は、観光客の交通事故が多いため、島内レンタカー禁止、小型無人バスの導入してはどうか
城辺地域 ／城辺公民館	<ul style="list-style-type: none"> ○兄弟親戚、知り合いの送迎が主な交通手段（交通弱者） ○免許返納後の交通手段が少ないため、自治会ごとの乗り合いの仕組みづくりデマンドバスやコミュニティバスバスの運行を求める声がある ○シニアカー専用道路の整備
平良地域（市街地） ／市役所	<ul style="list-style-type: none"> ○バスの乗り方が分からない ○レンタサイクルやカーシェアなどシェアサービスの検討 ○バスと自転車の連携（バス停とシェアサイクルの組み合わせ） ○空白地区のデマンドバス ○少人数仕様の車両変更
平良地域（郊外部） ／西原公民館	<ul style="list-style-type: none"> ○兄弟親戚、病院の送迎が主な交通手段（交通弱者） ○デマンド交通、コミュニティバスへの導入による郊外部と中心市街地を結ぶ路線の強化と市街地の回遊性向上を図ってほしい ○電気自動車を活用したエコな安いサービスの提供を求める声 ○交通弱者支援に対する交通支援
伊良部地域 ／伊良部公民館	<ul style="list-style-type: none"> ○病院の送迎や買い物専用バスが主な交通手段（交通弱者） ○スマホが使える人は増えていくから予約制も可能ではないか ○北区・南区を結んで平良市街行きの本数を増設（30分に1本程度） ○南地区と佐良浜間の連絡は分けて考え、7～8人の小型バス、無人バス、自動運転、自動のミニカー（シルバーカー等）導入による地域内の移動手段の確保を望む

(4) 自動車交通量調査

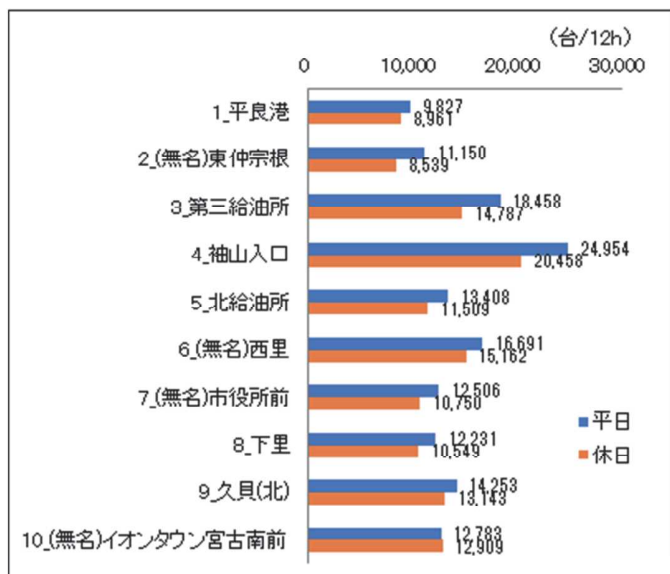
調査目的	主に平良地域内の主要交差点を対象に、各流入部別・方向別・時間別・車種別の自動車交通量調査を実施する。																						
調査日時	平日：令和4年12月6日（火）7日（水） 休日：令和4年12月3日（土）4日（日） 時間帯：7時～19時（連続12時間調査）																						
調査内容	<p>調査対象交差点において、流入部別に方向別・時間別・車種別の交通量を観測する。 観測時間：7時00分から19時00分まで 観測区分：下表に示す車種分類区分に従い3分類で実施する。 観測単位：60分単位</p> <p style="text-align: center;">（車種分類表）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>観測区分</th> <th>車種分類</th> <th>分類番号</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小型車類</td> <td>小型乗用車</td> <td>3.5.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小型貨物車</td> <td>4.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大型車類</td> <td>大型乗用車</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大型貨物車</td> <td>0.1.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>二輪車</td> <td>バイク</td> <td></td> <td>原付含む</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※8ナンバー車両が形状により類似車種へ分類する。</p> <div style="margin-left: 200px; margin-top: 20px;">  </div>	観測区分	車種分類	分類番号	備考	小型車類	小型乗用車	3.5.7		小型貨物車	4.6		大型車類	大型乗用車	2		大型貨物車	0.1.9		二輪車	バイク		原付含む
観測区分	車種分類	分類番号	備考																				
小型車類	小型乗用車	3.5.7																					
	小型貨物車	4.6																					
大型車類	大型乗用車	2																					
	大型貨物車	0.1.9																					
二輪車	バイク		原付含む																				

(調査結果の概要)

【地点別交通量】

- ・地点別の総流入交通量をみると、ほぼ全箇所ですべて平日のほうが休日よりも、交差点総流入交通量は多くなっている。特に第三給油所と袖山入口では約4,000台多くなっている。
- ・これは、当該交差点が平良から宮古空港への幹線道路である平良城辺線（県道78号線）上の地点であり、袖山入口には大規模商業施設（ドン・キホーテ）が取り付いていることが交通量の増加の一要因となっていると考えられる。
- ・なお、イオンタウン宮古南前は、大規模商業施設（イオンタウン宮古南）の近隣であることから、若干ではあるが休日の総流入交通量が多くなっていると考えられる。

■平日別・地点別総交通量



【断面交通量】

- ・ 交通量的には、本調査の対象路線は4種1級～4種2級道路と考えられる。
- ・ 2車線道路の設計基準交通量は約10,000台/日、4車線道路以上だと、1車線あたり10,000台/日が目安となる。平成27年道路交通センサスより、付近の昼夜率を見ると、約1.2であることから、12時間交通に換算すると、2車線道路の設計基準交通量は約8,000台/日、4車線道路以上だと、1車線あたり8,000台/日が目安となる。
- ・ 以上を勘案すると、⑨久貝北—⑩イオンタウン宮古南前の国道390号、③第三給油所—⑥西里東—⑩イオンタウン宮古南の南北道路、④袖山入口—⑦市役所前の南北道路②東仲宗根—③第三給油所の東西道路などは、割合飽和状態に近いと考えられる。
- ・ ③第三給油所—④袖山入口は、断面交通量は多いが4車線道路であり、問題ない。

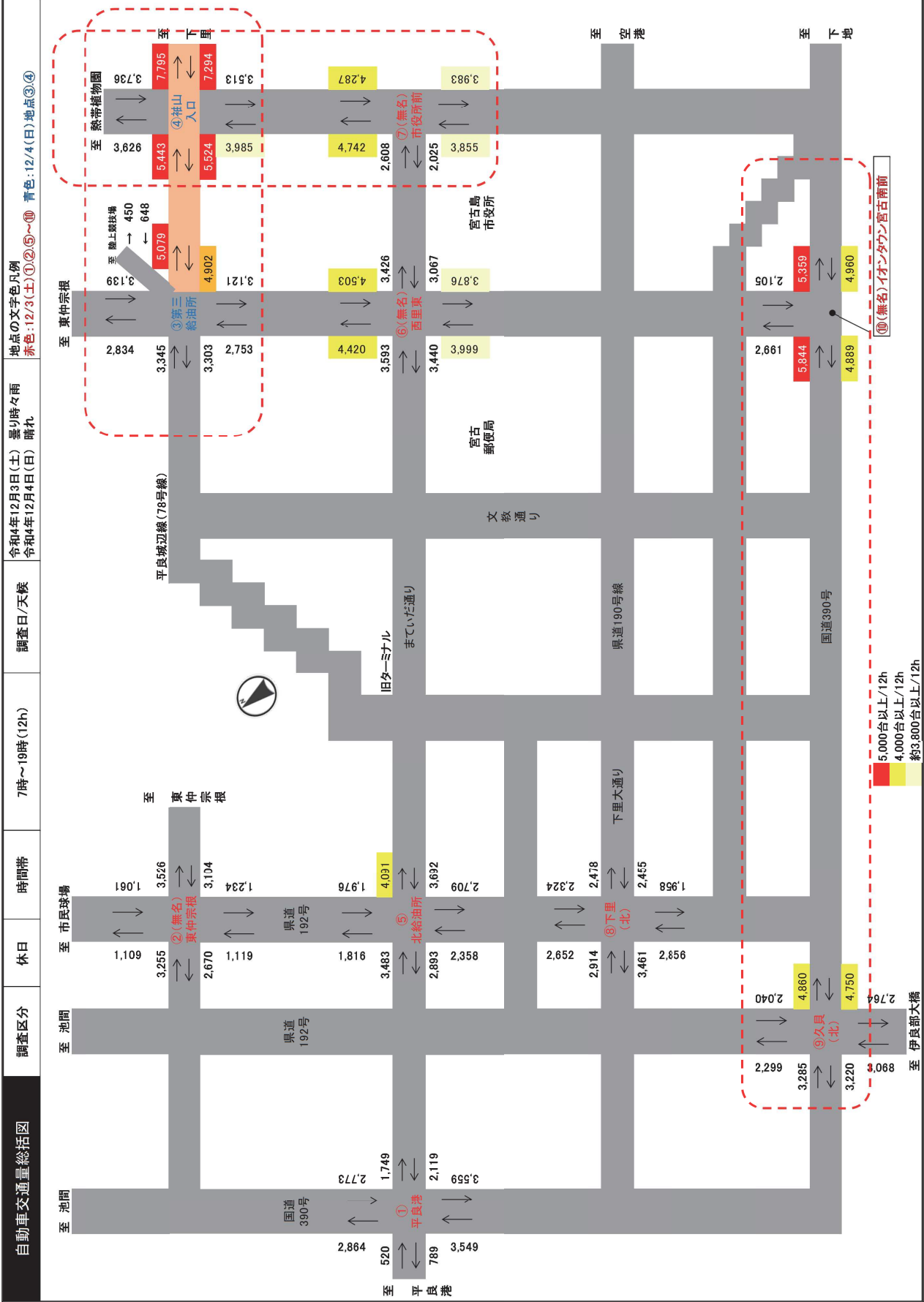
【交通流動】

- ・ 交通流動としては、東西方向の（都）中央縦線（平良港～市役所・空港方向）が比較的多く、特に③第三給油所—④袖山入口、⑨久貝北—⑩イオンタウン宮古南前が多い。また④袖山入口—⑦市役所前も多くなっている。

【交通流動からみた都市構造の現状】

- ・ 交通需要は、平日・休日ともに、中心市街地よりもその外郭部、特に宮古島市役所、宮古空港方面が多くなっている。
- ・ 都市構造的にも、都市機能の需要が中心部から宮古島市役所、宮古空港方面など東部の新市街地方面へと進展してきているといえる。

■ 総括図 (休日)



※グレーの道路は2車線道路、オレンジの道路は4車線道路

(5) 携帯電話位置情報データによる分析（概要）

対象①) 市民生活における移動実態把握

市民生活における島内の移動実態について、対象施設の来訪者の居住地を把握することにより、施設の影響範囲の傾向をとらえる。

時点：	
○コロナ禍（緊急事態措置あり）：令和3年8月	
○コロナ禍（緊急事態措置なし）：令和4年8月	
対象とする場所：	
中心市街地、生活関連施設（官公庁、病院、主な商業施設）、交通施設	
中心市街地	旧平良庁舎周辺
生活関連施設	【官公庁】 ・宮古島市役所 ・市立図書館（未来創造センター・中央公民館）
	【病院】 ・県立宮古病院 ・宮古島徳洲会病院
	【主な商業施設】 ・サンエー宮古島シティ ・サンエーショッピングタウン宮古 ・タウンプラザかねひでみゃーく平良市場 ・イオンタウン宮古南ショッピングセンター（マックスバリュ宮古南店ほか） ・ドン・キホーテ周辺（ドン・キホーテ宮古島店/マックスバリュ宮古西里店/メイクマン宮古店ほか） ・JAおきなわファーマーズマーケットみやこ「あたらす市場」 ・島の駅みやこ/平良久貝郵便局 ・Aコープ（さらはま店、下地店、城辺店、上野店）
交通施設	【空港】 ・宮古空港 ・下地島空港
	【港湾】 ・平良港（ターミナルビル）

(調査結果の概要)

【中心市街地】

- ・緊急事態措置があった令和3年と比べ、緊急事態措置がない令和4年時には、利用者の範囲が拡大している。
- ・利用している時間帯は、緊急事態措置があった令和3年では、日中の17時台までの時間帯の利用が多かったが、令和4年には、19時から21時の利用が多くなっており、飲食店の利用者が増えていることが推測できる。
- ・利用者の年代としては、緊急事態措置があった令和3年では、50代、70歳以上の割合が高かったが、令和4年では、30代の割合が高くなっている。

【官公庁】

- ・市役所・図書館については、広範囲からの利用者がみられる。
- ・利用時間帯、利用者の年代については、10時～11時30分、14時～15時の利用が多く、50代の利用が多い。
- ・市立図書館については、緊急事態措置があった令和3年では、午前中の利用が多かったのに対し、緊急事態措置がない令和4年では、午前中に加え、14時～15時の利用が多くなっている。
- ・図書館利用者の年代としては、30代の利用者が最も多く、緊急事態措置があった令和3年では、40代・60代の割合が高かったが、令和4年では、70歳以上の割合が高くなっている。緊急事態措置があった令和3年と比べ、緊急事態措置がない令和4年時には、利用者の範囲が拡大している。

【病院】

- ・病院については、広範囲からの利用者がみられる。
- ・利用時間帯は、午前中に利用が多く、おおむね9時から11時30分の利用が多くなっている。

【主な商業施設（大規模）】

- ・主な商業施設については、広範囲からの利用者がみられる。
- ・利用時間は、いずれも午前中の10時～12時、午後は14時～17時頃までが多い。
- ・中心市街地に位置するサンエーショッピングタウン宮古、タウンプラザかねひで、あたらす市場で、60代以上の高齢者の利用が多くなっており、市役所周辺に位置するサンエー宮古島シティ、ドン・キホーテ周辺は、30代の利用が多くなっている。

【商業施設（各地域）】

- ・商業施設（各地域）については、生鮮食品を扱い各地域にあるAコープを対象としているが、施設周辺地域の利用者が多くなっている。
- ・利用時間は、いずれも11時～12時の昼時が多くなっている。
- ・利用者の年代は、いずれの地域も60代以上の高齢者の利用が多くなっている。

【交通施設】

- ・交通施設については、広範囲からの利用者がみられる。
- ・利用時間は、緊急事態措置があった令和3年は、午前10時30分～12時と14時以降が多くなっていたが、緊急事態措置がない令和4年では、午後の利用（～17時まで）が増えている。
- ・利用者の年代は、40代が多くなっている。

対象②) 市民生活における移動実態把握

観光客の島内の移動実態について、対象施設相互の関連性をとらえる。

<p>時点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍（緊急事態措置あり）：令和3年8月 ○コロナ禍（緊急事態措置なし）：令和4年8月
<p>対象とする場所：</p> <p>ループバスの停留所周辺及びループバスのルート沿線以外（伊良部地域）の大規模宿泊地（ホテル）と、主な観光スポットなど（6か所まで）</p>
<p>◎宮古島東急ホテル&リゾート</p> <ul style="list-style-type: none"> -平良市街地 -いらぶ大橋海の駅周辺+周辺宿泊施設 -シギラセブンマイルリゾート・うへのドイツ文化村周辺 -東平安名崎周辺 -砂山ビーチ <p>◎シギラセブンマイルリゾート・うへのドイツ文化村周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> -平良市街地 -いらぶ大橋海の駅周辺+周辺宿泊施設 -宮古島東急ホテル&リゾート周辺 -東平安名崎周辺 -砂山ビーチ <p>◎いらぶ大橋海の駅周辺+周辺宿泊施設</p> <ul style="list-style-type: none"> -平良市街地 -宮古島東急ホテル&リゾート周辺 -シギラセブンマイルリゾート・うへのドイツ文化村周辺 -東平安名崎周辺 -砂山ビーチ

(調査結果の概要)

- ・いずれも中心市街地の併用が多くなっている。また、南岸地域の施設間の併用も多い傾向がある。